

目的 スーツやオーバー・コートの製作において、前芯地が用いられるが、特に冬季の衣服としてのオーバー・コートでは、体熱放散を遮断し、保温性の高い芯地の方が望ましい。近年のオーバー・コート、スーツの芯として接着芯の使用度が高いが、着装した際の体感として接着芯を用いた場合は、毛芯より寒く感じると言われている。今回は接着芯と毛芯地のもつ保温性について検討した。

方法 オーバー・コート地としてモッサー2種とリバーシブル1種を用い、前芯地としては接着芯2種(基布は織物と不織布)と毛芯地を用いた。接着は、フラット式ヒュージングプレス機を使用し、接着温度130～140度、加圧力 $0.2\text{ kg/cm}^2$ 、加圧タイム10秒で接着した。保温性測定は、恒温法でJIS法にもとづいて標準状態下で行った。

結果 芯地接着後および毛芯すえを行った後の硬軟性は、モッサー種は芯地の種類により差が比較的大きく、毛芯地の場合が柔らかい。リバーシブルに対しては硬軟性の芯地のちがいによる差はモッサーよりも小さい。保温性については、No.2のモッサーとリバーシブルは芯地による保温率の差は小さく、比較的うす手のNo.1のモッサーは、2種の接着芯地を接着した時よりも、毛芯地をすた方の保温率が大きい。従って表地がやや薄い場合は硬軟度からくる体へのなじみと、保温率の結果から、毛芯地を用いた場合は、体になじんでやや保温率も高いので暖かいのではないかと思われる。しかし厚手に対しては芯地の種類に対する保温率の差違は顕著ではない。